

ハフハフハー

ブハーから学んだ事

3年 T・Aさん

ブハーはどくを持っていて、きらわれていたけれど、山犬をどくでおいはうことができて、みんなからしんようをえられたことがすごいなと思いました。そして、ブハーはどくで友だちを守ったことで、どくはあってもいいと気づいたんだと思います。

ブハーとぼくのっている所は、友だちを多く作りたいことです。ぼくは休み時間にみんなと楽しくバレーボールをやっています。一人でボール遊びをするなんて考えられません。だから、ブハーがどくが出る所にせんをしてまで友だちになるうとしたことがよく分かります。

みんなをどくでできから守ることができたブハーはどくを持っている事を受け入れることができ、自信を持ってありのままの自分をすきになれたと思います。

ブハーの友だちは、ブハーを山犬から守ってくれたヒーローで、ブハーのどくがへんだとは思わなくなったんだと思います。

物語のさい後でブハーもブハーの友だちもみんな大人になって、もうみんなで遊ぶことがなくなったけど、ブハーが、ありのままの自分のすがたを受け入れてハブとしてどうとうと毎日を生きていることがなんだかともうれいす。どくのないほかの生き物たちと自分はただちがうだけなんだということが分かったからです。

このお話だけでなくみんなと自分とのちがいをすきとかきらいでなくちがうだけということをもみんなが理かいてきたら世の中はもっとみんななかよくなれるにちがいありません。

たとえば生まれた国や目の色やかみの色やしん長の高いひくいや男か女など生まれもったその人そのままをそれぞれのちがいとしてみんなみとめあえてそのちがいを楽しめたらもっといい世の中になると思います。ぼくは、まず、身のまわりの友だちと自分とのちがいをちがうだけなんだと受けとめ、ちがいを楽しみたいと思うようになりました。